

株 主 各 位

千葉県香取市玉造三丁目1番5号
株 式 会 社 エ ヌ ア イ デ イ
代表取締役社長 鈴 木 清 司

第46期定時株主総会招集ご通知

拝啓 日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、当社第46期定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申しあげます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができませんので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成25年6月25日（火曜日）午後6時までに到着するようご返送くださいますようお願い申しあげます。

敬 具

記

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 日 時 | 平成25年6月26日（水曜日）午前11時 |
| 2. 場 所 | 千葉県香取市佐原イ525-1
佐原商工会議所 4階大ホール
(末尾記載の会場ご案内図をご参照ください。) |
| 3. 目 的 事 項
報 告 事 項 | 1. 第46期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）
事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役
会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第46期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）
計算書類報告の件 |
| 決 議 事 項 | |
| 第 1 号 議 案 | 剰余金処分の件 |
| 第 2 号 議 案 | 取締役9名選任の件 |
| 第 3 号 議 案 | 監査役1名選任の件 |
| 第 4 号 議 案 | 補欠監査役2名選任の件 |

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出  
くださいますようお願い申しあげます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が  
生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス [http://  
www.nid.co.jp/](http://www.nid.co.jp/)）に掲載させていただきます。

(提供書面)

## 事業報告

(平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで)

### 1. 企業集団の現況

#### (1) 当事業年度の事業の状況

##### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、震災復興需要等を背景に緩やかな回復の動きが見られ、政権交代を機に円安・株高基調へ転ずる等、景気回復への期待感が一段と高まりました。しかしながら、欧州債務問題の長期化や中国をはじめとする新興国経済の成長鈍化による海外経済減速等の影響もあり、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの属する情報サービス業界においては、クラウドコンピューティングやスマートフォン、タブレット端末の普及により、関連する分野の市場成長が期待されております。しかしながら、国内企業は製造業を中心に減速した状態が長引いており、企業のIT投資も先行き不透明な状況から抑制傾向が続いております。

こうした状況の中、当社グループは、既存顧客に対する現場営業の徹底と、「とる営業」から「生み出す営業」への転換等により営業体制を強化し、受注獲得に努めました。平成24年8月には本社を移転し各事業拠点を集約することで、経営資源の共有と業務効率化を図るとともに、プロジェクト毎の専用ルームを新設し、万全な情報セキュリティで顧客の多様なニーズへ迅速に対応できるような施策も実施いたしました。

また、既存分野の事業に加えて付加価値ビジネスへも取り組み、当社グループの技術を生かしつつ新たな事業領域の拡大を目指しております。その中心として当社独自に開発した、Androidスマートフォン向けアプリの「VALiB0」とサービスプラットフォーム「Nstylist」の販売展開に注力いたしました。

前期から継続する震災に起因したNID東北の不振がありましたでしたが、通信システム事業と情報システム事業、ネットワークソリューション事業の受注が好調に推移し、売上、利益とも前期を上回る結果となりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高15,531百万円（前期比4.8%増）、営業利益1,011百万円（同16.2%増）、経常利益1,090百万円（同21.2%増）となりました。また、特別損失として本社移転統合に伴う費用を計上する一方、法定実効税率の変更による影響があった前期に比べ法人税等調整額が減少した結果、当期純利益は585百万円（同78.1%増）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

#### 【通信システム事業】

当事業では、モバイル関連や自動車関連の受注が増加いたしました。また、プロジェクト管理の徹底により、不採算プロジェクトの影響があった前期に比べ利益面の改善を図りました。この結果、売上高は3,720百万円（前期比9.7%増）、営業利益187百万円（同95.0%増）となりました。

#### 【情報システム事業】

当事業では、生損保、共済関連や流通、製造業の受注が増加いたしました。この結果、売上高は3,405百万円（同14.1%増）、営業利益313百万円（同7.5%増）となりました。

#### 【ネットワークソリューション事業】

当事業では、官公庁関連の受注は減少いたしましたが、運輸業や生損保等の主要顧客からの受注が増加いたしました。この結果、売上高は4,576百万円（同5.4%増）、営業利益305百万円（同39.3%増）となりました。

#### 【NID・IS】

当事業では、データ入力関連の受注は電力関連の顧客を中心に増加いたしました。この結果、売上高は2,551百万円（同0.6%減）、営業利益177百万円（同6.3%増）となりました。

#### 【NID・IE】

当事業では、官公庁関連の受注が減少いたしました。この結果、売上高は742百万円（同9.5%減）、営業利益63百万円（同24.5%減）となりました。

### 【NID東北】

当事業では、震災の影響による停滞が依然として継続し、厳しい状況で推移いたしました。また、一部不採算プロジェクトも発生いたしました。この結果、売上高は534百万円（同25.7%減）、営業損失44百万円（前期は23百万円の営業利益）となりました。

### 【売上高内訳】

| セグメント別              | 前連結会計年度<br>(平成24年3月期) |       | 当連結会計年度<br>(平成25年3月期) |       | 前期比増減 |       |
|---------------------|-----------------------|-------|-----------------------|-------|-------|-------|
|                     | 売上高                   | 構成比   | 売上高                   | 構成比   | 増減額   | 増減率   |
|                     | 百万円                   | %     | 百万円                   | %     | 百万円   | %     |
| 通信システム事業            | 3,391                 | 22.9  | 3,720                 | 24.0  | 329   | 9.7   |
| 情報システム事業            | 2,984                 | 20.1  | 3,405                 | 21.9  | 420   | 14.1  |
| ネットワーク<br>ソリューション事業 | 4,340                 | 29.3  | 4,576                 | 29.5  | 236   | 5.4   |
| NID・IS              | 2,567                 | 17.3  | 2,551                 | 16.4  | △15   | △0.6  |
| NID・IE              | 819                   | 5.5   | 742                   | 4.8   | △77   | △9.5  |
| NID東北               | 719                   | 4.9   | 534                   | 3.4   | △184  | △25.7 |
| 計                   | 14,824                | 100.0 | 15,531                | 100.0 | 707   | 4.8   |

#### ② 設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資の総額は393百万円であります。

その主なものは、当社本社移転による、建物及び構築物107百万円、工具、器具及び備品101百万円、差入保証金108百万円等の設備投資であります。

#### ③ 資金調達の状況

該当事項はありません。

#### ④ 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況

該当事項はありません。

- ⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況  
該当事項はありません。
- ⑥ 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況  
該当事項はありません。
- ⑦ 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況  
該当事項はありません。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

(単位：千円)

| 区 分           | 第 43 期<br>(平成22年3月期) | 第 44 期<br>(平成23年3月期) | 第 45 期<br>(平成24年3月期) | 第 46 期<br>(当連結会計年度)<br>(平成25年3月期) |
|---------------|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------------------|
| 売 上 高         | 14,723,405           | 14,638,195           | 14,824,055           | 15,531,922                        |
| 経 常 利 益       | 921,972              | 994,124              | 899,332              | 1,090,400                         |
| 当 期 純 利 益     | 538,475              | 447,667              | 328,934              | 585,889                           |
| 1株当たり当期純利益(円) | 142.24               | 118.26               | 86.89                | 154.77                            |
| 総 資 産         | 10,272,703           | 10,660,906           | 11,108,738           | 11,741,699                        |
| 純 資 産         | 5,818,847            | 6,110,150            | 6,264,430            | 6,929,814                         |

### (3) 重要な親会社及び子会社の状況

#### ① 親会社との関係

該当事項はありません。

#### ② 重要な子会社の状況

| 会社名           | 資本金    | 当社の議決権比率 | 主要な事業内容                 |
|---------------|--------|----------|-------------------------|
|               | 千円     | %        |                         |
| 株式会社N I D・I S | 30,000 | 100.0    | システム開発事業、<br>情報処理サービス事業 |
| 株式会社N I D 東北  | 30,000 | 100.0    | システム開発事業                |
| 株式会社N I D・I E | 30,000 | 100.0    | システム開発事業、<br>情報処理サービス事業 |

### (4) 対処すべき課題

当社グループの属する情報サービス業界におきましては、顧客のIT投資に対するコスト意識の高まりが顕著にあらわれ、市場環境の厳しさは継続するものと思われまます。また、コンピュータメーカーを交え、企業間競争の激化が鮮明となり、他社との差別化を図ることが重要なポイントとなるものと認識しております。一方でITの進歩は著しく速く、スマートフォン、タブレット等のモバイルデバイス市場の成長、クラウドサービスへの変革の加速やユビキタスネットワーク化の推進等、新たな市場の成長が見込まれ、ネットワーク（通信）技術力の高いベンダー企業にとっては、広範囲な需要の取り込みが可能と思われまます。

このような状況において、当社グループでは「モバイル&エンベデッドに強いN I D」を企業イメージとして市場を確立すべく事業展開を行ってまいります。そして、さらにシステム構築における「品質と生産性」、「信頼性」、「セキュリティ」に対応できる体制作りに取り組むとともに、経営の合理化・効率化を推し進め収益力の一層の向上を図り、高付加価値企業を目指してまいります。

### (5) 主要な事業内容（平成25年3月31日現在）

当社グループは、当社及び子会社3社で構成されており、システム開発事業（通信システムのソフトウェア開発、情報システムのソフトウェア開発）及び情報処理サービス事業（ネットワークソリューション、データ入力、その他）を主たる業務としております。

(6) 主要な事業所（平成25年3月31日現在）

|                  |         |          |
|------------------|---------|----------|
| 当 社              | 本 社     | 東京都中央区   |
|                  | 埼玉営業所   | 埼玉県さいたま市 |
|                  | 名古屋オフィス | 愛知県名古屋   |
| 株式会社 N I D ・ I S | 千葉事業所   | 千葉県船橋市   |
|                  | 佐原事業所   | 千葉県香取市   |
| 株式会社 N I D 東北    | 本 社     | 宮城県仙台市   |
| 株式会社 N I D ・ I E | 本 社     | 東京都新宿区   |

(注) 当社の登記上の本店所在地は、千葉県香取市玉造三丁目1番5号であります。

(7) 使用人の状況（平成25年3月31日現在）

① 企業集団の使用人の状況

| 事業部門            | 使用人数   | 前連結会計年度末比増減 |
|-----------------|--------|-------------|
| 通信システム事業        | 254名   | 10名増        |
| 情報システム事業        | 200名   | 1名増         |
| ネットワークソリューション事業 | 405名   | 9名減         |
| その他共通部門         | 78名    | 2名増         |
| N I D ・ I S     | 282名   | 15名減        |
| N I D ・ I E     | 122名   | 8名減         |
| N I D 東北        | 76名    | 3名減         |
| 合計              | 1,417名 | 22名減        |

(注) 上記の他、パート社員が229名おります。

② 当社の使用人の状況

| 使用人数 | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|-----------|-------|--------|
| 937名 | 2名減       | 35.9歳 | 13.9年  |

(8) その他企業集団の現況に関する重要な事項

記載すべき重要な事実はありません。

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況（平成25年3月31日現在）

- ① 発行可能株式総数 17,479,320株
- ② 発行済株式の総数 4,369,830株
- ③ 株主数 559名
- ④ 大株主（上位10名）

| 株主名                             | 持株数     | 持株比率  |
|---------------------------------|---------|-------|
| 小森俊太郎                           | 6,270百株 | 16.5% |
| 小森孝一                            | 5,479百株 | 14.4% |
| エヌアイデイ従業員持株会                    | 3,701百株 | 9.7%  |
| 有限会社クリエートトニーワン                  | 2,337百株 | 6.1%  |
| ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント | 1,625百株 | 4.2%  |
| 小澤忍                             | 1,477百株 | 3.9%  |
| 一般財団法人小森文化財団                    | 1,000百株 | 2.6%  |
| 鈴木清司                            | 992百株   | 2.6%  |
| 竹田和平                            | 852百株   | 2.2%  |
| ベアリーギフォード シンニッポン ビーエルシー         | 766百株   | 2.0%  |

- (注) 1. 当社は、自己株式を584,237株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### (2) 新株予約権等の状況

該当事項はありません。



### (3) 会社役員 の 状 況

#### ① 取締役及び監査役の状況（平成25年3月31日現在）

| 会社における地位 | 氏 名       | 担当及び重要な兼職の状況                                                          |
|----------|-----------|-----------------------------------------------------------------------|
| 代表取締役会長  | 小 森 孝 一   | 一般財団法人小森文化財団 代表理事                                                     |
| 代表取締役社長  | 鈴 木 清 司   |                                                                       |
| 専務取締役    | 小 森 俊 太 郎 | 株式会社NID東北 代表取締役<br>株式会社NID・IS 取締役<br>株式会社NID・IE 取締役                   |
| 常務取締役    | 馬 場 常 雄   | 管理本部 兼 情報管理室 長<br>株式会社NID・IS 代表取締役<br>株式会社NID東北 取締役<br>株式会社NID・IE 取締役 |
| 取締役      | 北 雅 昭     | 事業本部 長<br>株式会社NID・IE 代表取締役<br>株式会社NID・IS 取締役<br>株式会社NID東北 取締役         |
| 取締役      | 田 辺 学     | 営業本部 長<br>株式会社NID・IS 取締役<br>株式会社NID東北 取締役<br>株式会社NID・IE 取締役           |
| 取締役      | 下 山 和 郎   | 財 経 部 長                                                               |
| 取締役      | 盛 満 敏 昭   | ネットワークソリューション事業部長                                                     |
| 取締役      | 石 井 廣     | 通 信 シ ス テ ム 事 業 部 長                                                   |
| 常勤監査役    | 千 保 郁 夫   |                                                                       |
| 監査役      | 菅 井 源 太 郎 | 香西林産株式会社 代表取締役                                                        |
| 監査役      | 濱 田 清     | 弁 護 士<br>濱 田 法 律 事 務 所 代 表                                            |

(注) 監査役菅井源太郎氏及び監査役濱田清氏は、社外監査役であります。

なお、当社は、監査役菅井源太郎氏及び監査役濱田清氏を大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

## ② 事業年度中に退任した取締役

| 氏名   | 退任日        | 退任事由 | 退任時の地位・担当及び重要な兼職の状況     |
|------|------------|------|-------------------------|
| 鈴衛哲雄 | 平成24年6月27日 | 辞任   | 取締役本部副本部長<br>情報システム事業部長 |

## ③ 取締役及び監査役に支払った報酬等の総額

| 区分               | 支給人員       | 支給額             |
|------------------|------------|-----------------|
| 取締役              | 10名        | 316百万円          |
| 監査役<br>(うち社外監査役) | 3名<br>(2名) | 15百万円<br>(7百万円) |
| 合計               | 13名        | 332百万円          |

- (注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 取締役の報酬限度額は、平成15年6月27日開催の第36期定時株主総会において年額400百万円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）と決議いただいております。
3. 監査役の報酬限度額は、平成9年6月26日開催の第30期定時株主総会において年額200百万円以内と決議いただいております。
4. 当事業年度末日現在の取締役は9名（うち社外取締役は0名）、監査役は3名（うち社外監査役は2名）であります。上記の取締役の支給人員と相違しておりますのは、平成24年6月27日に辞任により退任した取締役1名が含まれるためであります。
5. 上記の支給額には、以下のものが含まれております。
- ・当事業年度における役員退職慰労引当金の増加額16百万円（取締役10名分15百万円、監査役3名分0百万円（うち社外監査役2名分0百万円））。

## ④ 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等の業務執行者としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・監査役菅井源太郎氏は、香西林産株式会社の代表取締役であります。当社と同社との間には、特別な関係はありません。
- ・監査役濱田清氏は、濱田法律事務所の代表であります。当社と同事務所との間には、特別な関係はありません。

ロ. 当事業年度における主な活動状況

|           | 活 動 状 況                                                                                                                        |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 監査役 菅井源太郎 | <p>当事業年度に開催された取締役会17回（定例12回、臨時5回）のうち11回に、監査役会13回（定例12回、臨時1回）のうち11回に出席し、両会議において、永年にわたる経営者としての見地から、当社の経営上有用な指摘、意見をいただいております。</p> |
| 監査役 濱田 清  | <p>当事業年度に開催された取締役会17回（定例12回、臨時5回）のうち12回に、監査役会13回（定例12回、臨時1回）のうち12回に出席し、両会議において、弁護士としての専門的見地から、当社の経営上有用な指摘、意見をいただいております。</p>    |

#### (4) 会計監査人の状況

- ① 名称 新宿監査法人
- ② 報酬等の額

|                                     | 支 払 額    |
|-------------------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 23,000千円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 23,000千円 |

(注) 1. 当社のすべての子会社につきましても新宿監査法人が会計監査人となっております。

2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

#### ③ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

取締役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、監査役会の同意を得たうえで、または、監査役会の請求に基づいて、会計監査人の解任または不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役会全員の同意に基づき監査役会が、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

## (5) 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
その他会社の業務の適正を確保するための体制については、内部統制システム構築の基本方針として決定しております。その概要は以下のとおりであります。

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - ① 法令遵守及び企業倫理に基づいた公正な企業活動の徹底を図るべく、社長を委員長とした「内部統制委員会」を設置し、一定の重要な意思決定を伴う事項については同委員会で審議する。
  - ② 当社グループのコンプライアンスに対する基本ポリシーを策定し、役員及び社員が主体的に法令遵守を意識して業務に取り組むよう周知・教育する。
  - ③ 組織から独立した社長直轄の監査室を設置し、当社グループの日常業務の適切性・信頼性及び効率性、法令の遵守状況等について内部監査を実施する。
  - ④ 法令に違反する行為を当社グループ社員等が発見した場合の報告体制として、内部通報制度を構築する。社外弁護士及び当社総務部を「N I Dグループホットライン」と称した通報窓口とし、ホットラインの責任者（総務部長）は、通報内容を社長及び内部統制委員会に報告する。通報は匿名でも受け付け、通報者に不利益な取扱いをしない。
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
  - ① 取締役の職務執行に係る情報（議事録・稟議書・契約書等）を、法令及び社内規程に基づき、文書により保存する。
  - ② 文書の保存期間その他の管理体制については文書管理規程による。
  - ③ 監査役が求めたときは、取締役または使用人はいつでも当該文書を閲覧または謄写に供する。

### 3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① リスク管理全般に係る規程と対応マニュアルを制定する。
- ② 事業リスクについては「リスクプロジェクト対策委員会」を組織して、リスク発生の未然防止及びその拡大を防ぐための活動を行う。
- ③ 情報リスクについては「情報セキュリティ委員会」を組織して、施策を決定し、役員及び社員に周知・教育を行う。
- ④ 有事においては、社長を本部長とする「対策本部」が統括して危機管理にあたる。

### 4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 定例の取締役会を毎月1回開催し、重要事項の決定及び取締役の職務執行状況について監督等を行う。
- ② 業務の運営については、各事業部長が将来の事業環境を見据え中期事業計画及び各年度予算を立案し、その内容を予算委員会で審議し目標予算を設定する。また、目標予算が当初の予定通りに進捗しているか業績管理を行う。

### 5. 会社並びに親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ① 内部統制委員会は、当社グループ全体の内部統制（コンプライアンス及びリスク管理を含む）を統括・推進する。
- ② 子会社管理の担当部署を置き、関係会社管理規程を定めて、子会社の状況に応じて必要な管理を行う。
- ③ 子会社には当社役職員を役員として派遣し、子会社の管理・監督を行う。

6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項・補助使用人の取締役からの独立性に関する事項

現在、監査役の職務を補助すべき使用人はいないが、必要に応じて、その職務を補助する監査役スタッフを置くこととし、その人事については独立性を考慮したものとし、取締役と監査役が意見交換する。

7. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人は、下記に定める事項を監査役に報告する。

- ① 取締役会に付議された案件
- ② 当社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実
- ③ 監査室が実施した内部監査の結果
- ④ 上記のほか監査役がその職務遂行上報告を受ける必要があると判断した事項

8. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ① 監査役は、取締役会や定例幹部会議のほか、内部統制委員会やリスクプロジェクト対策委員会等の重要な会議に出席することができ、必要に応じて取締役や使用人より報告を求めることができる。
- ② 監査役は、監査室より内部監査の結果報告を受け、または特定事項に関し調査の依頼を監査室の担当責任者に求めることができる。
- ③ 監査役は、会計監査人と定期的な意見交換を行い、また顧問弁護士より随時必要な時にアドバイスを求めて、外部の専門家と連携を図る。

## 9. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

### ① 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

経営活動の障害となる反社会的勢力に対しては、断固とした姿勢で対応し、決して妥協することなく一切の関係を遮断することを基本方針とする。

### ② 反社会的勢力排除に向けた整備状況

反社会的勢力による不当要求に対しては、当社管理本部総務部を対応統括部署として、組織的に毅然とした対応を行うこととし、適宜弁護士と協議できる体制も構築している。

社員への周知、教育面では、反社会的勢力へは断固とした姿勢で対応することを行動基準の1つに設け、社員はこの行動基準を社員証と併せて携帯しており、全社員向けeラーニングや新入社員研修、階層別研修においても徹底を図っている。

## 10. 財務報告の適正性を確保するための体制

① 企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施状況の設定（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用している。

② 組織から独立した代表取締役社長が直轄する監査室が、内部統制の運用状況の有効性について定期的・継続的に評価を行っている。

## (6) 会社の支配に関する基本方針

買収防衛策等の方針について特に記載すべき事項はありません。



# 連結貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部            |                   | 負 債 の 部              |                   |
|--------------------|-------------------|----------------------|-------------------|
| 科 目                | 金 額               | 科 目                  | 金 額               |
| <b>流 動 資 産</b>     | <b>8,682,404</b>  | <b>流 動 負 債</b>       | <b>2,159,944</b>  |
| 現金及び預金             | 5,433,380         | 買掛金                  | 368,986           |
| 受取手形及び売掛金          | 2,437,497         | 未払金                  | 378,499           |
| 有価証券               | 1,040             | 未払費用                 | 117,130           |
| 仕掛品                | 233,669           | 未払法人税等               | 183,833           |
| 未収入金               | 88,108            | 未払消費税等               | 89,015            |
| 繰延税金資産             | 423,920           | 賞与引当金                | 867,411           |
| その他                | 64,787            | その他                  | 155,067           |
| <b>固 定 資 産</b>     | <b>3,059,294</b>  | <b>固 定 負 債</b>       | <b>2,651,939</b>  |
| <b>有 形 固 定 資 産</b> | <b>415,674</b>    | 退職給付引当金              | 2,146,391         |
| 建物及び構築物            | 152,124           | 役員退職慰労引当金            | 409,050           |
| 土地                 | 136,767           | 資産除去債務               | 36,213            |
| その他                | 126,781           | その他                  | 60,285            |
| <b>無 形 固 定 資 産</b> | <b>213,054</b>    | <b>負 債 合 計</b>       | <b>4,811,884</b>  |
| ソフトウェア             | 168,967           | <b>純 資 産 の 部</b>     |                   |
| その他                | 44,086            | <b>株 主 資 本</b>       | <b>6,734,333</b>  |
| <b>投資その他の資産</b>    | <b>2,430,565</b>  | 資本金                  | 653,352           |
| 投資有価証券             | 1,301,520         | 資本剰余金                | 488,675           |
| 繰延税金資産             | 765,910           | 利益剰余金                | 6,818,669         |
| 差入保証金              | 257,783           | 自己株式                 | △1,226,363        |
| 貸倒引当金              | △275              | その他の包括利益累計額          | 195,481           |
| その他                | 105,625           | その他有価証券評価差額金         | 195,481           |
| <b>資 産 合 計</b>     | <b>11,741,699</b> | <b>純 資 産 合 計</b>     | <b>6,929,814</b>  |
|                    |                   | <b>負 債 純 資 産 合 計</b> | <b>11,741,699</b> |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書

(平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                         | 金 額     | 金 額        |
|-----------------------------|---------|------------|
| 売 上 高                       |         | 15,531,922 |
| 売 上 原 価                     |         | 12,696,796 |
| 売 上 総 利 益                   |         | 2,835,125  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費         |         | 1,823,296  |
| 営 業 外 利 益                   |         | 1,011,829  |
| 営 業 外 収 益                   |         |            |
| 受 取 利 息                     | 108     |            |
| 受 取 配 当 金                   | 19,425  |            |
| 保 険 事 務 手 数 料               | 5,011   |            |
| 受 取 保 険 金                   | 32,530  |            |
| 助 成 金 収 入                   | 26,553  |            |
| そ の 他                       | 4,101   | 87,731     |
| 営 業 外 費 用                   |         |            |
| 支 払 利 息                     | 1,572   |            |
| 投 資 事 業 組 合 管 理 料           | 3,769   |            |
| 出 資 金 運 用 損                 | 3,416   |            |
| そ の 他                       | 402     | 9,160      |
| 経 常 利 益                     |         | 1,090,400  |
| 特 別 損 失                     |         |            |
| 固 定 資 産 売 却 損               | 229     |            |
| 固 定 資 産 除 却 損               | 36,663  |            |
| 本 社 移 転 費 用                 | 75,183  |            |
| 特 別 退 職 金                   | 12,170  |            |
| そ の 他                       | 6,079   | 130,326    |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益       |         | 960,073    |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税       | 369,014 |            |
| 法 人 税 等 調 整 額               | 5,169   | 374,184    |
| 少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益 |         | 585,889    |
| 当 期 純 利 益                   |         | 585,889    |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

（平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで）

（単位：千円）

|                                      | 株主資本    |         |           |            |           |
|--------------------------------------|---------|---------|-----------|------------|-----------|
|                                      | 資 本 金   | 資本剰余金   | 利益剰余金     | 自 己 株 式    | 株主資本合計    |
| 当 期 首 残 高                            | 653,352 | 488,675 | 6,403,131 | △1,226,363 | 6,318,795 |
| 連結会計年度中の変動額                          |         |         |           |            |           |
| 剰 余 金 の 配 当                          |         |         | △170,351  |            | △170,351  |
| 当 期 純 利 益                            |         |         | 585,889   |            | 585,889   |
| 株主資本以外の項目<br>の連結会計年度中の<br>変 動 額（純 額） |         |         |           |            |           |
| 連結会計年度中の変動額合計                        | －       | －       | 415,537   | －          | 415,537   |
| 当 期 末 残 高                            | 653,352 | 488,675 | 6,818,669 | △1,226,363 | 6,734,333 |

|                                      | その他の包括利益累計額      |                   | 純 資 産 合 計 |
|--------------------------------------|------------------|-------------------|-----------|
|                                      | その他有価証券<br>評価差額金 | その他の包括利益<br>累計額合計 |           |
| 当 期 首 残 高                            | △54,364          | △54,364           | 6,264,430 |
| 連結会計年度中の変動額                          |                  |                   |           |
| 剰 余 金 の 配 当                          |                  |                   | △170,351  |
| 当 期 純 利 益                            |                  |                   | 585,889   |
| 株主資本以外の項目<br>の連結会計年度中の<br>変 動 額（純 額） | 249,846          | 249,846           | 249,846   |
| 連結会計年度中の変動額合計                        | 249,846          | 249,846           | 665,384   |
| 当 期 末 残 高                            | 195,481          | 195,481           | 6,929,814 |

（注） 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

#### (1) 連結の範囲に関する事項

##### ① 連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 3社
- ・連結子会社の名称 株式会社N I D・I S  
株式会社N I D東北  
株式会社N I D・I E

##### ② 非連結子会社の状況

- ・非連結子会社の数 1社
- ・非連結子会社の名称 U F 15M有限責任事業組合
- ・連結の範囲から除いた理由 非連結子会社は、規模が小さく、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除いております。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の状況

- ・非連結子会社及び  
関連会社の数 2社
- ・会社の名称 U F 15M有限責任事業組合  
北京拿宝環球文化交流有限公司
- ・持分法を適用しない理由 各社の当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度は、連結会計年度と一致しております。

#### (4) 会計処理基準に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### イ. その他有価証券

- ・時価のあるもの 連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法  
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、  
売却原価は移動平均法により算定)
- ・時価のないもの 移動平均法による原価法

- ロ. たな卸資産の評価基準及び評価方法
- ・ 仕掛品 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）
- ② 重要な減価償却資産の減価償却の方法
- イ. 有形固定資産
- （リース資産を除く） 定率法によっております。  
ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）は定額法によっております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

|           |         |
|-----------|---------|
| 建物及び構築物   | 3年から47年 |
| 車両運搬具及び   |         |
| 工具、器具及び備品 | 2年から20年 |
- ロ. 無形固定資産
- （リース資産を除く）
  - ・ 市場販売目的のソフトウェア 見込販売収益に基づく償却額と見込販売有効期間（3年以内）に基づく均等配分額のいずれか大きい金額を計上しております。
  - ・ 自社利用のソフトウェア 社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
  - ・ その他の無形固定資産 定額法によっております。
- ハ. リース資産
- ・ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る資産 リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。  
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- ③ 重要な引当金の計上基準
- イ. 貸倒引当金
- 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ. 賞与引当金
- 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

- ハ．退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度の末日における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。  
 数理計算上の差異及び過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定率法により按分した額をそれぞれ発生の連結会計年度から費用処理しております。
- ニ．役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えて役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。
- ④ 重要な収益及び費用の計上基準  
 完成工事高及び完成工事原価の計上基準  
 イ．当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
     工事進行基準（工事の進捗率の見積もりは原価比例法）  
 ロ．その他の工事  
     工事完成基準
- ⑤ その他連結計算書類作成のための重要な事項  
 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

（減価償却方法の変更）

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ8,644千円増加しております。

## 3. 連結貸借対照表に関する注記

- |                              |           |
|------------------------------|-----------|
| (1) 資産から直接控除した受注損失引当金<br>仕掛品 | 29,025千円  |
| (2) 有形固定資産の減価償却累計額           | 235,100千円 |

#### 4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

##### (1) 発行済株式の総数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首の株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末の株式数 |
|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 普通株式  | 4,369,830株    | 一株           | 一株           | 4,369,830株   |

##### (2) 自己株式の数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首の株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末の株式数 |
|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 普通株式  | 584,237株      | 一株           | 一株           | 584,237株     |

##### (3) 剰余金の配当に関する事項

###### ① 配当金支払額

| 決議                       | 株式の種類 | 配当金の総額    | 1株当たり配当額 | 基準日            | 効力発生日          |
|--------------------------|-------|-----------|----------|----------------|----------------|
| 平成24年<br>6月27日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 170,351千円 | 45円      | 平成24年<br>3月31日 | 平成24年<br>6月28日 |

###### ② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力が翌連結会計年度になるもの

| 決議予定                     | 株式の種類 | 配当金の総額    | 1株当たり配当額 | 基準日            | 効力発生日          |
|--------------------------|-------|-----------|----------|----------------|----------------|
| 平成25年<br>6月26日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 170,351千円 | 45円      | 平成25年<br>3月31日 | 平成25年<br>6月27日 |

## 5. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

#### ① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、運転資金、設備投資資金等を自己資金で賄っておりますが、必要に応じて短期の運転資金等を銀行借入により調達しております。一時的な余資は流動性及び安全性の高い金融資産で運用し、デリバティブはリスクを回避するために利用する可能性があります。投機的な取引は行わない方針としております。

#### ② 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、有価証券及び投資有価証券は、主に余資の一部を活用した資金運用としての株式や取引先企業との業務または資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。営業債務である買掛金及び未払金は、そのほとんどが1か月以内の支払期日となっております。借入金は、主に短期の運転資金の調達によるもので、借入期間はすべて3か月以内であります。

#### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

##### イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、社内規程に基づき、営業債権については、主要な取引先の信用状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとの支払期日や債権残高管理をするとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握により貸倒リスクの軽減を図っております。

##### ロ. 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を定期的に見直しております。

##### ハ. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、本社経理部門統括の下、各社にて資金繰計画を適時作成・更新するとともに、手許流動性を維持することにより流動性リスクを管理しております。



④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください)。

|               | 連結貸借対照表<br>計上額(千円) | 時価(千円)    | 差額(千円) |
|---------------|--------------------|-----------|--------|
| (1) 現金及び預金    | 5,433,380          | 5,433,380 | —      |
| (2) 受取手形及び売掛金 | 2,437,497          | 2,437,497 | —      |
| (3) 投資有価証券    | 1,279,970          | 1,279,970 | —      |
| 資産計           | 9,150,848          | 9,150,848 | —      |
| (1) 買掛金       | 368,986            | 368,986   | —      |
| (2) 未払金       | 378,499            | 378,499   | —      |
| (3) 未払法人税等    | 183,833            | 183,833   | —      |
| 負債計           | 931,320            | 931,320   | —      |

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項  
資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

## 負債

### (1) 買掛金、(2) 未払金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

### 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区分    | 連結貸借対照表計上額 (千円) |
|-------|-----------------|
| 非上場株式 | 21,550          |

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

### 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

|                   | 1年以内<br>(千円) | 1年超<br>5年以内<br>(千円) | 5年超<br>10年以内<br>(千円) | 10年超<br>(千円) |
|-------------------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 現金及び預金            | 5,433,380    | —                   | —                    | —            |
| 受取手形及び売掛金         | 2,437,497    | —                   | —                    | —            |
| 投資有価証券            |              |                     |                      |              |
| その他有価証券のうち満期があるもの |              |                     |                      |              |
| (1) 国債・地方債等       | —            | —                   | —                    | —            |
| (2) その他           | —            | 114,983             | —                    | —            |
| 合計                | 7,870,878    | 114,983             | —                    | —            |

## 6. 1株当たり情報に関する注記

- |                |           |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 1,830円58銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 154円77銭   |

# 貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部         |                  | 負 債 の 部        |                   |
|-----------------|------------------|----------------|-------------------|
| 科 目             | 金 額              | 科 目            | 金 額               |
| <b>流動資産</b>     | <b>5,996,670</b> | <b>流動負債</b>    | <b>1,857,554</b>  |
| 現金及び預金          | 3,479,309        | 買掛金            | 541,554           |
| 売掛金             | 1,867,483        | 未払金            | 219,699           |
| 有価証券            | 1,040            | 未払費用           | 87,745            |
| 仕掛品             | 223,432          | 未払法人税等         | 179,435           |
| 未収入金            | 79,928           | 未払消費税等         | 66,209            |
| 繰延税金資産          | 308,127          | 預り金            | 88,892            |
| その他             | 37,347           | 賞与引当金          | 649,791           |
| <b>固定資産</b>     | <b>2,446,033</b> | その他            | 24,226            |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>374,015</b>   | <b>固定負債</b>    | <b>2,199,465</b>  |
| 建物及び構築物         | 124,454          | 退職給付引当金        | 1,775,037         |
| 土地              | 136,767          | 役員退職慰労引当金      | 406,350           |
| その他             | 112,793          | 資産除去債務         | 11,554            |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>187,016</b>   | その他            | 6,523             |
| ソフトウェア          | 153,393          | <b>負債合計</b>    | <b>4,057,019</b>  |
| その他             | 33,623           | <b>純資産の部</b>   |                   |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>1,885,001</b> | <b>株主資本</b>    | <b>4,269,638</b>  |
| 投資有価証券          | 964,010          | 資本金            | 653,352           |
| 関係会社株式          | 82,230           | 資本剰余金          | 488,675           |
| 長期繰延税金資産        | 646,446          | 資本準備金          | 488,675           |
| 差入保証金           | 112,695          | <b>利益剰余金</b>   | <b>4,353,974</b>  |
| ゴルフ会員権          | 10,220           | 利益準備金          | 29,095            |
| 保険積立金           | 66,231           | その他利益剰余金       | 4,324,879         |
| 貸倒引当金           | △275             | 別途積立金          | 810,000           |
| その他             | 3,442            | 繰越利益剰余金        | 3,514,879         |
| <b>資産合計</b>     | <b>8,442,703</b> | <b>自己株式</b>    | <b>△1,226,363</b> |
|                 |                  | 評価・換算差額等       | 116,046           |
|                 |                  | その他有価証券評価差額金   | 116,046           |
|                 |                  | <b>純資産合計</b>   | <b>4,385,684</b>  |
|                 |                  | <b>負債純資産合計</b> | <b>8,442,703</b>  |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 損 益 計 算 書

（平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで）

（単位：千円）

| 科 目                   | 金       | 額          |
|-----------------------|---------|------------|
| 売 上 高                 |         | 12,757,583 |
| 売 上 原 価               |         | 10,411,778 |
| 売 上 総 利 益             |         | 2,345,805  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費   |         | 1,465,441  |
| 営 業 利 益               |         | 880,364    |
| 営 業 外 収 益             |         |            |
| 受 取 利 息               | 103     |            |
| 受 取 配 当 金             | 16,636  |            |
| 保 険 事 務 手 数 料         | 4,768   |            |
| 受 取 保 険 金             | 31,425  |            |
| 助 成 金 収 入             | 18,677  |            |
| そ の 他                 | 7,127   | 78,739     |
| 営 業 外 費 用             |         |            |
| 支 払 利 息               | 825     |            |
| 投 資 事 業 組 合 管 理 料     | 3,769   |            |
| そ の 他                 | 280     | 4,875      |
| 経 常 利 益               |         | 954,227    |
| 特 別 損 失               |         |            |
| 固 定 資 産 除 却 損         | 36,657  |            |
| 本 社 移 転 費 用           | 75,183  |            |
| 特 別 退 職 金             | 4,186   |            |
| そ の 他                 | 6,107   | 122,135    |
| 税 引 前 当 期 純 利 益       |         | 832,091    |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | 315,678 |            |
| 法 人 税 等 調 整 額         | 5,986   | 321,664    |
| 当 期 純 利 益             |         | 510,426    |

（注） 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 株主資本等変動計算書

(平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで)

(単位：千円)

|                         | 株主資本    |         |         |        |          |           |           | 自己株式       | 株主資本合計    |
|-------------------------|---------|---------|---------|--------|----------|-----------|-----------|------------|-----------|
|                         | 資本金     | 資本剰余金   |         | 利益剰余金  |          |           |           |            |           |
|                         |         | 資本準備金   | 資本剰余金合計 | 利益準備金  | その他利益剰余金 |           | 利益剰余金合計   |            |           |
|                         |         |         |         | 別積立金   | 繰越利益剰余金  |           |           |            |           |
| 当期首残高                   | 653,352 | 488,675 | 488,675 | 29,095 | 810,000  | 3,174,804 | 4,013,899 | △1,226,363 | 3,929,563 |
| 事業年度中の変動額               |         |         |         |        |          |           |           |            |           |
| 剰余金の配当                  |         |         |         |        |          | △170,351  | △170,351  |            | △170,351  |
| 当期純利益                   |         |         |         |        |          | 510,426   | 510,426   |            | 510,426   |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額) |         |         |         |        |          |           |           |            |           |
| 事業年度中の変動額合計             | -       | -       | -       | -      | -        | 340,075   | 340,075   | -          | 340,075   |
| 当期末残高                   | 653,352 | 488,675 | 488,675 | 29,095 | 810,000  | 3,514,879 | 4,353,974 | △1,226,363 | 4,269,638 |

|                         | 評価・換算差額等    |          | 純資産合計     |
|-------------------------|-------------|----------|-----------|
|                         | その他有価証券評価差額 | 評価・換算差額等 |           |
| 当期首残高                   | △54,364     | △54,364  | 3,875,198 |
| 事業年度中の変動額               |             |          |           |
| 剰余金の配当                  |             |          | △170,351  |
| 当期純利益                   |             |          | 510,426   |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額) | 170,410     | 170,410  | 170,410   |
| 事業年度中の変動額合計             | 170,410     | 170,410  | 510,486   |
| 当期末残高                   | 116,046     | 116,046  | 4,385,684 |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

- |                    |                                                                   |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------|
| ① 関係会社株式           | 移動平均法による原価法                                                       |
| ② その他有価証券          |                                                                   |
| ・時価のあるもの           | 事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法<br>(評価差額は全部純資産直入法により処理し、<br>売却原価は移動平均法により算定) |
| ・時価のないもの           | 移動平均法による原価法                                                       |
| ③ たな卸資産の評価基準及び評価方法 |                                                                   |
| ・仕掛品               | 個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)                         |

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

- |                             |                                                                                                                                        |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 有形固定資産<br>(リース資産を除く)      | 定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法によっております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。<br>建物及び構築物 3年から47年<br>車両運搬具及び<br>工具、器具及び備品 2年から20年 |
| ② 無形固定資産<br>(リース資産を除く)      |                                                                                                                                        |
| ・市場販売目的のソフトウェア              | 見込販売収益に基づく償却額と見込販売有効期間(3年以内)に基づく均等配分額のいずれか大きい金額を計上しております。                                                                              |
| ・自社利用のソフトウェア                | 社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。                                                                                                       |
| ・その他の無形固定資産                 | 定額法によっております。                                                                                                                           |
| ③ リース資産                     |                                                                                                                                        |
| ・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 | リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。           |

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度の末日における退職給付債務に基づき計上しております。

数理計算上の差異及び過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定率法により按分した額をそれぞれ発生の事業年度から費用処理しております。

④ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えて役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

- ・当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積もりは原価比例法）
- ・その他の工事  
工事完成基準

(5) その他計算書類作成のための基本となる事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ8,143千円増加しております。

## 3. 貸借対照表に関する注記

(1) 資産から直接控除した受注損失引当金

仕掛品 29,025千円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 155,963千円

(3) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

① 短期金銭債権 3,745千円

② 短期金銭債務 240,280千円

## 4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

① 売上高 4,848千円

② 外注費 1,725,327千円

③ その他の営業取引高 44,430千円

④ 営業取引以外の取引高 3,903千円

## 5. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首の株式数 | 当事業年度増加株式数 | 当事業年度減少株式数 | 当事業年度末の株式数 |
|-------|-------------|------------|------------|------------|
| 普通株式  | 584,237株    | 一株         | 一株         | 584,237株   |



## 6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別内訳

|              |           |
|--------------|-----------|
| 繰延税金資産（流動）   |           |
| 賞与引当金        | 246,985千円 |
| 社会保険料損金不算入   | 33,351千円  |
| 未払事業税        | 12,250千円  |
| その他          | 15,539千円  |
| 繰延税金資産（流動）合計 | 308,127千円 |
| 繰延税金資産（固定）   |           |
| 退職給付引当金      | 632,623千円 |
| 役員退職慰労引当金    | 144,823千円 |
| その他          | 51,734千円  |
| 繰延税金資産（固定）小計 | 829,180千円 |
| 評価性引当額       | △91,981千円 |
| 繰延税金資産（固定）合計 | 737,199千円 |
| 繰延税金負債（固定）   |           |
| その他有価証券評価差額金 | 90,753千円  |
| 繰延税金負債（固定）小計 | 90,753千円  |
| 繰延税金資産純額     | 954,574千円 |

## 7. リースにより使用する固定資産に関する注記

貸借対照表に計上した固定資産のほか、生産設備等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しておりましたが、当事業年度中にリース契約が終了したことにより、当事業年度末においては、該当事項はありません。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額  
当事業年度中にリース契約が終了したことにより、該当事項はありません。

(2) 未経過リース料期末残高相当額  
当事業年度中にリース契約が終了したことにより、該当事項はありません。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

|          |       |
|----------|-------|
| 支払リース料   | 445千円 |
| 減価償却費相当額 | 391千円 |

(4) 減価償却費相当額の算定方法  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 減損損失について  
リース資産に配分された減損損失はありません。

## 8. 関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社

| 種 類 | 会社等の名称              | 資本金又は出資金<br>(千円) | 議 決 権 等<br>の 所 有<br>(被所有)<br>割合(%) | 関連当事者<br>との関係 | 取引内容          | 取引金額<br>(千円) | 科 目 | 期末残高<br>(千円) |
|-----|---------------------|------------------|------------------------------------|---------------|---------------|--------------|-----|--------------|
| 子会社 | 株式会社<br>N I D ・ I S | 30,000           | 所有<br>直接100.0%                     | 役員の兼任         | プログラム<br>開発委託 | 902,694      | 買掛金 | 125,522      |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

1. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案し、交渉・協議の上で決定しております。
2. 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

## 9. 1株当たり情報に関する注記

|                |           |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 1,158円52銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 134円83銭   |

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成25年5月13日

株式会社エヌアイデイ  
取締役会 御中

### 新宿監査法人

指 定 社 員 公 認 会 計 士 田 中 信 行 ㊞  
業 務 執 行 社 員  
指 定 社 員 公 認 会 計 士 末 益 弘 幸 ㊞  
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社エヌアイデイの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エヌアイデイ及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成25年5月13日

株式会社エヌアイデイ  
取締役会 御中

### 新宿監査法人

指 定 社 員 公 認 会 計 士 田 中 信 行 ㊞  
業 務 執 行 社 員  
指 定 社 員 公 認 会 計 士 末 益 弘 幸 ㊞  
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社エヌアイデイの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第46期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

#### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第46期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）の状況を監視及び検証いたしました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度にかかる計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新宿監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人新宿監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成25年 5月14日

株式会社エヌアイデイ 監査役会

常勤監査役 千 保 郁 夫 ㊟

社外監査役 菅 井 源 太 郎 ㊟

社外監査役 濱 田 清 ㊟

以 上



## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

#### 期末配当に関する事項

当社の配当政策は、株主への利益還元を行うことを経営の最重要課題の一つとして位置づけ、更なる経営基盤の強化、積極的な事業展開、組織・運営効率の向上、及び財務体質の強化を図りつつ、各期の業績、将来の事業展開、配当性向等を勘案しながら、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

上記に基づき、第46期の期末配当につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

- ① 配当財産の種類  
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金45円といたしたいと存じます。  
なお、この場合の配当総額は、170,351,685円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日  
平成25年6月27日といたしたいと存じます。

## 第2号議案 取締役9名選任の件

本総会の終結の時をもって、取締役全員は任期満了となりますので、取締役9名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生年月日)           | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                           | 所有する当社<br>の株式数 |
|-----------|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 1         | 小 森 孝 一<br>(昭和9年3月1日生)  | 昭和42年5月 当社代表取締役社長<br>昭和47年12月 当社代表取締役専務<br>(合併による変更)<br>平成2年5月 当社代表取締役副社長<br>平成5年6月 当社代表取締役社長<br>平成12年10月 当社経営企画本部長<br>平成17年6月 当社代表取締役会長<br>(現任)<br><br>(重要な兼職の状況)<br>一般財団法人小森文化財団 代表理事 | 547,982株       |
| 2         | 鈴 木 清 司<br>(昭和16年6月6日生) | 昭和44年10月 株式会社コンピュータ・<br>マーケティング(現当<br>社)入社<br>平成元年6月 当社取締役<br>平成9年6月 当社常務取締役<br>当社事業本部長<br>平成15年6月 当社代表取締役専務<br>平成17年6月 当社代表取締役社長<br>(現任)                                               | 99,292株        |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生年月日)             | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                | 所有する当社<br>の 株 式 数 |
|-----------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 3         | 小 森 俊 太 郎<br>(昭和39年9月3日生) | 平成9年6月 当社監査役<br>平成12年6月 当社取締役<br>平成14年4月 当社財務部長<br>平成19年4月 当社常務取締役 事業本<br>部長<br>平成22年4月 当社専務取締役 (現任)<br>(重要な兼職の状況)<br>株式会社NID東北 代表取締役<br>株式会社NID・IS 取締役<br>株式会社NID・IE 取締役                                                                    | 627,060株          |
| 4         | 馬 場 常 雄<br>(昭和23年4月19日生)  | 昭和42年8月 当社入社<br>平成2年6月 当社総務部長<br>平成5年6月 当社取締役<br>平成17年6月 当社常務取締役 経営企<br>画本部長<br>平成20年10月 当社常務取締役 経営企<br>画本部長 兼 情報管理<br>室長<br>平成22年4月 当社常務取締役 管理本<br>部長 兼 情報管理室長<br>(現任)<br>(重要な兼職の状況)<br>株式会社NID・IS 代表取締役<br>株式会社NID東北 取締役<br>株式会社NID・IE 取締役 | 70,350株           |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生年月日)            | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                         | 所有する当社<br>の 株 式 数 |
|-----------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 5         | 北 雅 昭<br>(昭和27年7月7日生)    | 昭和48年4月 当社入社<br>平成14年4月 当社ネットワークソリューション事業部長<br>平成15年6月 当社取締役(現任)<br>平成22年4月 当社事業本部長(現任)<br>(重要な兼職の状況)<br>株式会社NID・IE 代表取締役<br>株式会社NID・IS 取締役<br>株式会社NID東北 取締役          | 26,900株           |
| 6         | 田 辺 学<br>(昭和25年1月13日生)   | 昭和48年4月 当社入社<br>平成10年4月 当社営業部長<br>平成15年4月 当社通信システム事業部長<br>平成17年6月 当社取締役(現任)<br>平成22年4月 当社営業本部長(現任)<br>(重要な兼職の状況)<br>株式会社NID・IS 取締役<br>株式会社NID東北 取締役<br>株式会社NID・IE 取締役 | 17,300株           |
| 7         | 下 山 和 郎<br>(昭和25年4月10日生) | 昭和49年4月 株式会社三和銀行(現株式会社三菱東京UFJ銀行) 入行<br>平成15年6月 同行退社<br>平成15年7月 当社入社 経理部担当部長<br>平成16年4月 当社企画室長<br>平成19年4月 当社経理部長(現任)<br>平成19年6月 当社取締役(現任)                              | 7,200株            |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生年月日)            | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                       | 所有する当社<br>の 株 式 数 |
|-----------|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 8         | 盛 満 敏 昭<br>(昭和34年5月15日生) | 昭和54年10月 当社入社<br>平成16年4月 当社ネットワークソリューション第1部長<br>平成20年4月 当社ネットワークソリューション副事業部長<br>当社ANAネットワークソリューション部長(現任)<br>平成22年4月 当社ネットワークソリューション事業部長(現任)<br>平成24年6月 当社取締役(現任)    | 2,400株            |
| 9         | 石 井 廣<br>(昭和33年11月28日生)  | 昭和56年4月 株式会社高見澤電機製作所入社<br>昭和62年7月 同社退社<br>昭和62年8月 株式会社エヌアイデイ・アイエス(現株式会社NID・IS)入社<br>平成18年4月 株式会社NID・IS事業部長<br>平成22年4月 当社出向<br>当社通信システム事業部長(現任)<br>平成24年6月 当社取締役(現任) | 3,900株            |

(注) 各取締役候補者と当社の間には、特別の利害関係はありません。

### 第3号議案 監査役1名選任の件

本総会終結の時をもって、監査役 千保郁夫氏は任期満了となりますので、監査役1名の選任をお願いしたいと存じます。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

| 氏名<br>(生年月日)           | 略歴、当社における地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                      | 所有する当社の株式数 |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 千保郁夫<br>(昭和16年11月14日生) | 昭和39年4月 富国生命保険相互会社 入社<br>平成10年6月 当社へ出向<br>当社事業本部副本部長<br>平成13年4月 当社情報システム事業部長<br>平成13年6月 当社取締役<br>平成13年11月 富国生命保険相互会社 退社<br>平成17年6月 当社常勤監査役(現任) | 6,700株     |

(注) 監査役候補者と当社の間には、特別の利害関係はありません。

#### 第4号議案 補欠監査役2名選任の件

法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役2名の選任をお願いするものであります。

候補者鈴衛哲雄氏は、第3号議案の監査役候補者である千保郁夫氏が承認された場合の同氏の補欠として、候補者石井慎一氏は、社外監査役菅井源太郎氏及び濱田清氏の補欠として選任するものとします。

なお、本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

補欠監査役候補者は次のとおりであります。

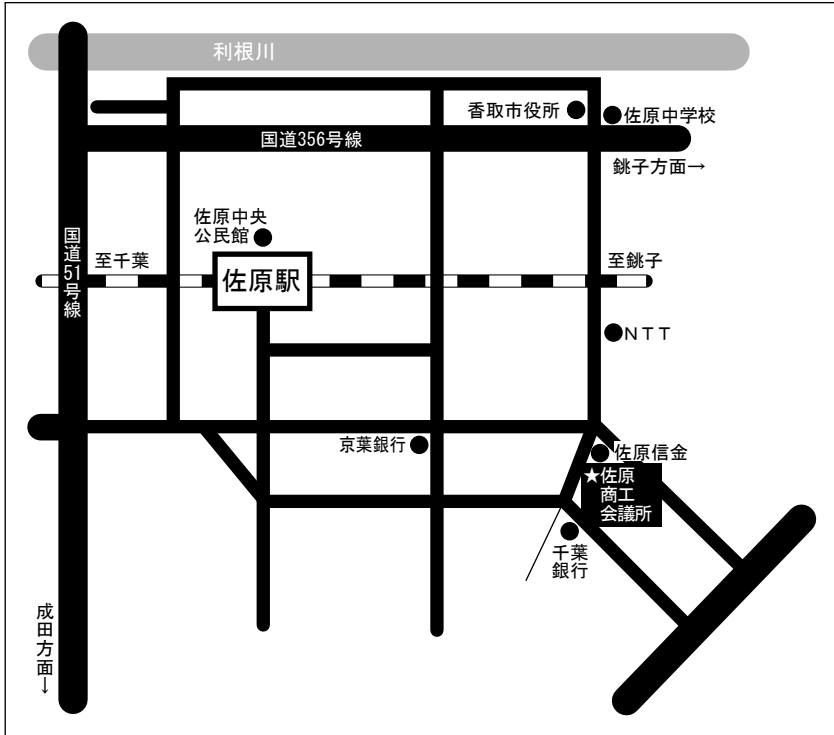
| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生年月日)             | 略歴、当社における地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                     | 所有する当社<br>の株式数 |
|-----------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 1         | 鈴 衛 哲 雄<br>(昭和24年1月25日生)  | 昭和57年3月 松下システムエンジニアリング株式会社(現株式会社NTTデータMSE)入社<br>平成15年4月 同社代表取締役専務<br>平成17年3月 同社退社<br>平成17年4月 当社入社 企画室技術顧問<br>平成17年6月 当社情報システム事業部長(現任)<br>平成19年6月 当社取締役<br>平成22年4月 当社事業本部 副本部長 | 5,500株         |
| 2         | 石 井 慎 一<br>(昭和41年11月20日生) | 平成6年4月 弁護士登録(東京弁護士会)<br>清水法律事務所入所<br>平成11年4月 双葉法律事務所入所(千葉県弁護士会)<br>平成18年2月 石井法律事務所開設<br>現在に至る                                                                                 | 一株             |

- (注) 1. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。  
 2. 石井慎一氏は、補欠の社外監査役候補者であります。  
 3. 石井慎一氏を補欠の社外監査役候補者とした理由は、弁護士として培われた高度な専門的知識を当社の監査体制に反映していただくことを期待したためであります。なお、同氏は、直接企業経営に関与した経験はありませんが、上記の理由により、社外監査役の職務を適切に遂行できるものと判断しております。

以 上

# 株主総会会場ご案内図

会場 千葉県香取市佐原イ525-1  
佐原商工会議所 4階大ホール  
電話 0478-54-2244



交通 JR成田線 佐原駅から徒歩10分